

群 教 セ	G09 - 03
	令 6. 287 集
	英 語 - 高

高校英語における、学習したことを基に 当事者意識をもって自分の考えを 表現できる生徒の育成

——Project Based Learning型授業と
自己調整の場の設定を通して——

特別研修員 菊地 洋彰

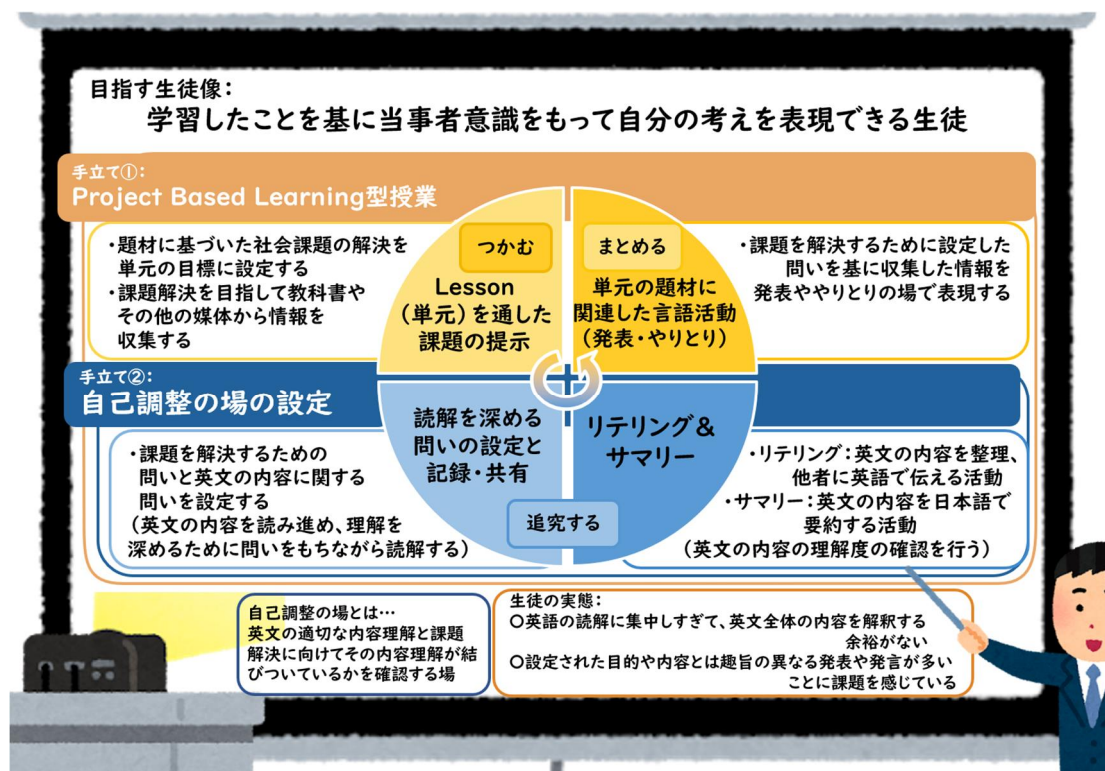
I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編において、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」という外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることが求められている。また、群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）において、一人一人がエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成を最上位目標として掲げている。

研究協力校では、英語の読解に集中しすぎることが原因で英文全体の内容を誤って理解をする生徒の姿が見られた。さらに、学習内容の理解が不足しているため、設定された目的や内容とは趣旨の異なる発表や発言等をしてしまうことに課題をもつ生徒の姿が見られた。そのため、自らの理解を振り返り、主体的・自律的に情報を収集しながら学習に取り組むことのできる機会を設けることと、題材に基づいた社会課題の解決を目的に学習することで、当事者意識をもって自分の考えを表現できる生徒の育成を目指すことができると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

学習したことを基に当事者意識をもって自分の考えを表現できる生徒の育成を目指して、以下の二つの手立てを用いて単元計画を作成し、授業改善を実施した。

手立て1 *Project Based Learning型授業（以下PBL型授業）

単元の初めに、題材に基づいた社会課題の解決を目的とする言語活動を教師が提示する。生徒は解決策を考えるための教材の一つとして、教科書の英文を読解し、単元末でその内容を踏まえた言語活動を実施するような授業を単元を通して実施する。

手立て2 自己調整の場の設定

英文を読解する上で、内容を適切に理解し、課題解決に向かうことができているかを自己の振り返り、他者との情報共有を通して確認する場として以下の二つを設定する。

① 生徒の英文の内容理解を促進し、言語活動へと内容理解が結びつくよう以下の二つの問いを設定し、随時Question Sheet（Google スプレッドシート）に記録する場。

ア 英文の内容を読解することで解決できそうな問い（教科書の内容に関して不明な点を明らかにし、繰り返し読み返すことを促すことが目的）

イ 題材に基づいた社会課題の解決策を具体化するための問い（単元の最後に言語活動を行う動機づけが目的）

これらの問いを基に英文を読み進め、単元末で教科書やその他の媒体から収集できた情報に基づき、生徒自身が考えた解決策を表現する内容の発表原稿を作り、言語活動を実施する。

② 英文を一通り読解した後に自分で理解したことを、リテリングやサマリーとしてまとめ、他者との交流を図り、その交流を通して自分の理解度を振り返る場。

*Project Based Learningとは、生徒が実社会の中から自ら課題を発見して解決する能力を養うことを目的とした学習方法のことである。

III 実践例

1 単元名 「Lesson 7 “Behind the Price Tag”」（第1学年・2学期）

2 本単元について

本単元は、安価で手に入るポロシャツ製造の陰に潜む過酷な労働環境とそのポロシャツを購入することに対する賛否が書かれている。生徒は本単元を通して、普段購入している商品の裏側を知り、消費者として購入する商品がどのような過程・労働環境で製造されているかに気付くことができる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	「ある製品を売り出す際に、社長として消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品とは」というテーマについて、聞いたことや読んだことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	
評価規準	(1) 知識・技能：「ある製品を売り出す際に、社長として消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品とは」というテーマについて、自分の考えを理由とともに話して伝えるために必要な語彙や表現（分詞構文）を理解している。 (2) 思考・判断・表現：消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品について、聞いたことや読んだことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えている。 (3) 主体的に取り組む態度：消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品について、聞いたことや読んだことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・「ある製品を売り出す際に、社長として消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品とは」というテーマを生徒に提示し、興味・関心を喚起するとともに、単元の学習課題についての見通しをもつ。
追究する	第2～4時	・安価で販売されているポロシャツ製造における過酷な労働環境を知ることとそのことに対する消費者の意見について読解を通して理解する。 ・単元末の言語活動に向けて、partごとの新出語句や言語材料を確認し、教科書の内容を理解する。 ・教科書を読みながら変化した問いやその答えをQuestion Sheetに記録する。
まとめる	第5時	・本単元で学習したことをリテリングとサマリーの作成を通して整理し、まとめる。
	第6・7時	・本単元で学習したことを参考にし、「ある製品を売り出す際に、社長として消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品とは」というテーマについてのプレゼンテーションを行い、その様子を撮影する。

3 授業の実際

(1) PBL型授業（単元初め）

単元の題材から、安価な商品販売の裏に潜む労働搾取という社会課題を解決するため、「ある製品を売り出す際に、社長として消費者と労働者の両方に利点をもたらすための新商品とは」というテーマでプレゼンテーションを行う言語活動を、単元の終末に設定した。その条件として、「労働環境に問題があり、業績が落ち込んでいる会社の社長に就任する」という状況を生徒に提示した。新製品を発表する社長になったつもりで発表するよう生徒に示した。単元の目標である言語活動の目的・場面・状況を理解した後、教科書の英文を読解し、必要に応じて書籍やインターネット等の媒体からも情報を収集した。

(2) 自己調整の場の設定

① Question Sheet（問いの記録）

英文を読み進めながら、生徒は教科書の英文の内容に関する問いと社会課題の解決策を具体化する問い（消費者と労働者の両方に利点をもたらすためには）について考え、Question Sheetに記録した。生徒は読解を通して各問いに対する答えが出た場合は記録し、更に新たな問いを立てながら単元の学習を進めた（表1）。

表1 Question Sheetの記録（生徒の問いの変化）

	Question 1	Answer 1	Question 2	Answer 2
解決策	Are there any better jobs where she can earn enough money?	She has no choice but to work in the factory.	How can we raise the wages in developing countries?	
教科書	Why do the apparel makers make their products in Bangladesh?	Because the wages and salaries are inexpensive.	How much money can the garment workers receive?	The workers can expect to earn less than one percent of the market price.

② リテリングとサマリー

英文の読解後にペアで概要を英語で伝えるリテリング活動を行った（図1）。生徒は2分間の準備の後、2分間でパートナーに伝え、アドバイスを受けた後に、再度2分間のリテリングに挑戦するという流れで活動に取り組んだ。その後、日本語で英文の内容を80～100文字で要約するサマリー活動を行った。生徒は15分程度で英文の内容を整理し、要約を作成した。完成後はペアで共有し、互いにアドバイスをし合う時間を設けた。



図1 リテリングの様子

(3) PBL型授業（単元終末の言語活動）

自己調整の場で確認した内容を基に発表原稿を作成し、発表を行った。各グループに分かれ、発表者（社長）、聞き手（労働者、消費者）、司会、ビデオ撮影者の役割をローテーションしながら発表し、その様子を録画した（図2）。発表後には、発表者が聞き手から質問を受け、回答する時間を設けた。最後に、「社長のプレゼンは自分（労働者、または消費者）にとって魅力的であったか」という観点のもと、聞き手が投票形式で発表者の評価を行った。



図2 プレゼンテーションの様子

(4) 考察

PBL型授業によって単元の初めに言語活動の条件等が提示されることで、生徒は社会課題の解決策を考えるために、教科書の英文を読解している様子が見えた。授業後のアンケートでは、90%以上の生徒が英文の内容を理解できたと回答しており、目的意識をもった読解が理解の促進につながったと考えられる。さらに、教科書の内容をきっかけにアイデアを思いついたという回答や、更なる疑問を解決するためにインターネット等を活用して情報収集を行うことができたという回答も多数見られた。

Question Sheetを用いた活動では、当初、どのような問いを立てればよいか分からず戸惑う生徒もいたが、回数を重ねるごとに教科書の内容を深める問いや言語活動のアイデアにつながる問いを立てられる生徒が増えた。本単元においても、生徒は英文を読解しながら思いついた問いや言語活動に向けた問いを随時記録する様子が見えた。アンケートによると、55%以上の生徒が英文の内容を理解するのに役立ち、65%以上の生徒が言語活動に向けたアイデアを考えるのに役立ったと回答している。

リテリングとサマリーの活動については、アンケートの結果から、90%の生徒がこれらの活動が英文の内容を理解することに役立ったと感じている。これは、リテリングを行う際やサマリーを作成する際に、生徒が英文を読み返したり、授業中にとったノートを見返したりと、何度も英文に立ち返る必要があったためだと考えられる。さらに、ペア活動を通して、相手の解釈やまとめ方を学んだり、アドバイスし合ったりすることで、内容理解が深まったと推察される。また、65%以上の生徒が、これらの活動を通して言語活動に向けたアイデアを整理することができたと回答している。これらの結果から、上記の活動が読解した内容の理解を整理するだけでなく、英文読解から言語活動への橋渡しの役割を果たしていることも分かった。

単元終末の言語活動では、80%以上の生徒が疑問や課題をもちながら英文を読解し、プレゼンテーションに向けて意欲的に準備することができたと回答している。また、授業内で発表した様子を録画した動画を教員が評価した結果、95%以上の生徒が、英文の内容（労働者と消費者の両方に利点をもたらすこと）を踏まえた上で、自身の考えを発表していることが分かった。

IV 研究のまとめ

1 成果

PBL型授業を用い、単元に基づいた社会課題の解決を目標として設定し、それを単元の始めに生徒に提示することで、生徒は単に英文を読むのではなく、社会課題の解決という目的意識をもって読解に取り組むようになった。その結果、理解が促進され、当事者意識をもって自分の意見を表現できるようになった。

また、自己調整の場を設定し、英文を読解することによって生じた疑問を記録する活動や、英文の内容をまとめる活動を行うことで、生徒は読解した内容を整理し、理解を深めることができる。疑問をもちながら読解することや、読解した内容を整理する活動を通して、理解が深まるだけでなく、言語活動に向けた思考の整理としても機能すると考えられる。

2 課題

単元の題材によってPBL型授業に適するものと適さないものがあるため、単元の選定が重要となる。また、言語活動を行う上で、生徒には言語面の知識や題材の背景知識が求められる。そのため、生徒がスムーズに活動を進められるよう、十分な支援が必要となる。

生徒がより本質に迫れるような問いを設定することができるようには、教師がロールモデルを示すだけでなく、生徒同士で情報を共有する場を多く設け、互いに議論しながら学び合う機会を提供することが有効である。さらに、教師側でも問いを設定する際のポイントやその意義を明確にし、生徒自身が振り返る機会を設ける必要がある。